



特集

## 社会人等の「学び直し」の機会の充実を目指して

- ④ 巻頭言  
自立して「生きる」道を開く学習支援システムの構築 〈八洲学園大学教授／浅井経子〉
- ⑥ 提言  
「学び直し」の必要性和大学の役割  
〈中央大学大学院公共政策研究科委員長・(社)学術・文化・産業ネットワーク多摩専務理事／細野助博〉
- ⑧ 事例紹介①  
学んだ成果を就労に生かす 〈北海道再チャレンジ学習支援協議会〉
- ⑩ 事例紹介②  
自分の経験伝えます! 〈青森県総合社会教育センター〉
- ⑫ 事例紹介③  
地域社会を元気にする「学び直し」の機会の提供  
〈株式会社クリエイティブ・トゥエンティワン／学校法人帯広コア学園 帯広コア専門学校〉
- ⑭ 取組紹介  
社会人も大学生 〈放送大学〉

連載

- ⑬ まなびの新風——あのみち・このまち  
若い力がいきる活気と希望にみちたまち 〈まなびのみち滋賀県守山市〉
- ⑳ 団塊世代による地域づくり  
団塊の世代と「立教セカンドステージ大学」 〈立教大学〉
- ㉒ マナビィと行く全国28の家  
自然を知り 自然から学び 自然に親しもう  
〈独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家〉
- ㉓ 子育てするならわがまちで  
ふくおか子育てパーク 〈福岡県立社会教育総合センター〉
- ㉔ 事例クローズアップ  
地域の教育資源・教育力を生かした野田市教育環境整備事業の取組  
〈千葉県野田市教育委員会学校教育部指導課〉
- ㉕ 事例クローズアップ  
教え学び支え合う教育現場間の連携づくり 〈独立行政法人 国立青少年教育振興機構〉
- ㉖ 事例クローズアップ特別編・今月のオススメ図書館  
にぎわいづくりの拠点として期待される、新しい形態の図書館  
〈福島県いわき市立いわき総合図書館〉
- ㉗ 挑戦! 企業が取り組む生涯学習  
暮らしに活かそう金融の基礎知識 〈野村證券株式会社〉

44 まなびの技術 ((有)チェンジ・エージェント代表取締役社長兼CEO、(有)イーズ取締役 小田理一郎さん)

46 都道府県ニュース

49 突撃レポート (cocoon)

50 Manabee News

53 教えてマナビィ

54 編集後記「笑顔博覧」



漫画家

安野モヨコさん

## 目立つ人だけが 『働きマン』じゃない

「働く人」は何かを問うかけ、テレビドラマ化やアニメ化もされた人気漫画『働きマン』作者の安野モヨコさんに、自らの職業観や漫画に対する思い、女性の社会参画、若者へのメッセージなどについてお話を伺いました。

好きであれば、  
耐えられる

安野さんは漫画家として大活躍されていますが、そもそも子どもの頃から漫画家を志されていたのですか。

お花屋さんになりたいとか、お嫁さんになりたいとか、よく子どもが口にする「夢」つてありますよね。私も最初はそういうことを言っていたんです。でも、小学三年生の頃でしたか、国語の時間に将来の夢について作文を書いているとき、「お花屋さん」とか書きながら、「何か違うな……」といった感じを覚えました。今思えば、便宜上の夢を自分は語っているに過ぎなかったのでしょう。それから何日も、「私は本当は何になりたんだろうか」つていう考えに取り付かれて。そんなとき、「あつ、漫画家になろう」つてひらめいたんです。

——そのひらめきの背景として、

叔父様(漫画家の小島功さん)の影響もあったのですか。

やはり叔父の影響はすごく大きいですね。友人の漫画家は、みんな子どもの頃、両親から「漫画家なんて、そんな夢みたいなこと言つてんじゃないの」つて怒られたつて言うんですよ。でも私の場合は、身近に漫画を描いて生活している人がいたので、全く夢のような話ではなかったんです。具体的な成功例を近くで見られたのは、とても大きかったと思います。

——安野さんのご活躍を見て、自分も漫画家になりたいと思う方もたくさんいるのではないかと思います。実際、漫画家というのはお勤めの職業ですか。それとも苦労が多く、あまりお勧めではないのですか。

うーん、ほんとに好きだったら耐えられると思いますよ(笑)。睡眠時間がとれないとか、運動不足になったりとか、ストーリーがうまく作れないとか、苦しみはありますが、好きだから我慢できるというのはありますね。ただ、あ



る考えたり悩んだりしているんですよっていうことを男の人にわかっただけで済んだんですね。「見るからに気が強く、仕事をガンガンやっている女性は、可愛げがなくとも手に負えない」っていうふうに思われていたら悲しいなと思って描いたんですよ。

——編集者やカメラマンなど、周りにいる男性の登場人物も魅力的ですが、モデルがいるという訳ではありません。仕事でお会いした人や昔からの友人など、いろんな人の個性を、いわば合成するような形でキャラクターを作っています。

——安野さんも、バリバリ働く女性であるとともに、家庭も立派な方ですが、モデルがいるという訳ではありません。仕事でお会いした人や昔からの友人など、いろんな人の個性を、いわば合成するような形でキャラクターを作っています。

——安野さんも、バリバリ働く女性であるとともに、家庭も立派な方ですが、モデルがいるという訳ではありません。仕事でお会いした人や昔からの友人など、いろんな人の個性を、いわば合成するような形でキャラクターを作っています。

——日本の漫画は、優れた文化芸術として海外で高く評価されていますが、そのことについてどう思われますか。

漫画にも活字にも親しんで!!

まり健康や美容にいい職業だとは思えないですけど(笑)。もちろん、規則正しい生活の中でお仕事されている方もいらっしゃるのですが、私なんかは熱中してしまうと「あれ、もう一日たつた」というようなことも多いです。だから本当に好きな人にとっては楽しい仕事だと思いますけど、それなりに大変なこともありますね。

——安野さんの作品は、子ども向けの作品から、時代考証を積まないといけないものまでかなり幅広く、生半可な準備や勉強では描けないと思うのですが、その辺にも「苦労があるのではないか」ですか。

それぞれの作品は全く違うテーマなんですけど、これを描いているときの気分転換にこれを描いて、これの気分転換にこれを描いて……という感じでやっていきます。でも歴史物だと特に専門の研究者を捜してお聞きしたり、資料を集めたりするのは大変ですね。その時代の部屋の中に何があったのかとか、そういう細かいことまで知らないで描いて後から詳しい

読者の方に指摘されるなど、恥ずかしい思いもしてきました。ただ、史実びつたり描いたからといって、面白いものになるかどうかはまた別の話です。私は史実どおりの歴史資料みたいなものを描きたいわけではなかったのですが、仮に間違いがあってもいいんじゃないかなと思っていました。やはり最終的には、自分が何を言いたいのか、何を描きたいか。自分の思いを素直に表現することが重要ではないでしょうか。

——一方で、自分が描きたいものばかり描けるわけでもないのでしょうか。

そうですね。漫画をアートとしてやっていらつしやる方もいますが、自分は商業作家だと思っているので、基本的には、芸術性よりもわかりやすさとか、読んでくれた人に伝わりやすい形を優先しています。ただ、そうすると、「でもこういう絵が描きたかったのに……」と、ストレスがちよつと溜まりますよね。この点、花魁の世界を描いた「さくらん」という作品については、自分の好きな



ように描くことができたので、達成感がありましたね。

『働きマン』に込めた思い

——ドラマ化もされ、大ヒットしている『働きマン』は、働く

派に両立させておられますが、仕事か家庭かで悩まれている方も結構いらつしやいますよね。

全部完璧にやろうと思うととても大変ですし、できなくてもいいと思うんですよ。

女性ファッション誌なんかを読んでいると、「オシャレして、仕事もできて、素敵な旦那様と超カッコイイ家庭を築いて」みたいな記事をよく目にします。でもそれは無理なんですよ。みんなそんな幻想を追いすぎて、「全然できていない。私ってダメじゃない」となって苦しんでいる人が多いと思うんです。目標を高く持つのはいいことですが、できなくても別に悪くないと思うんですよ。

——安野さんについては、「主人公(アニメーション監督の鹿野秀明さん)のご協力も大きいのではないか」と思っています。

漫画にも活字にも親しんで!!

画家というのは、職人でもありアーティストでもあると思うんです。でも残念ながら、海外ではそういうことが評価されていますが、日本人はわりとそれを普通に思い、改めて「すごい」とは考えられないんでしょうね。私も一読者だったときは、毎月のように読めるというのが当たり前に思っていて、ちょっと休載とかがあると「何で続きが読めないんだ」と文句を言っていました。でも、自分が実際に描いていくと「一か月くらい休ませてよ」ってなっちゃうときもあります。自分でやってみて、その大変さがわかりました。

あと、私の作品もフランス語版をはじめ海外版をたくさん出していただいているんですけど、日本語の書き文字ってあるじゃないですか、「ドカーン」とか。そういうのも絵の一部として捉えたりとか、海外の方の見方はちょっと違ってたりしていてもいいですね。私の作品をご覧になっていただいて、更に日本文化に興味をもっていたらいいと思います。すごくうれしいことですが、同時に

責任も感じます。

——よく「漫画ばかり読んで……」と子どもに親が注意しますよね。漫画も立派な表現、文化であると思いますが、一方で、子どもたちの活字離れも指摘されています。

子どものころは活字の本も大好きで、図書館の本を片っ端から読んでいました。でも同時に漫画もすごく読んでいたので、二つを分けて考えるというのがあまりよくわからないですね。

漫画には独特のテンポがあるんです。せりふと人の動きを絵で見せながら、その間にある微妙な心の変化とか空気感とか、そういうものを感じさせることができる。一方、小説などは文字だけなので、それを読みながら、こういうおうちの中なのかとか、絵をいろいろと想像するじゃないですか。それもすごく楽しかったし、全く読み方は違うんですけども、どちらも楽しいものなので、両方楽しんでほしいですし、楽しんでいただけるものを自分も描いていかなきゃいけないと思います。

「支える」ことも素晴らしい

——最後に若者に対し、安野さんからエールをお願いします。

先頭に立ってスポットライトを浴びて仕事をしている人だけが働いている、というわけじゃないと思うんですよ。目立たないところでそういう人をサポートすること

も、私はすごく大切な仕事だと思います。誰も気づいてくれないかも知れないけれど、自分がそこで満足していくということが、本当に仕事をして得られる喜びと成長ではないでしょうか。たとえスポットライトが当たらなくても、自分の性質や好きなこと、自分ができることをじっくりと考えて、自分に合った仕事を頑張ってやってほしいですね。

(取材・構成／編集部)



東京都出身。高校在学中に「別冊少女フレンド増刊 ジュリエット」にてデビュー。『働きマン』のほか、吉原の花魁の世界を描いた「さくらん」や、講談社漫画賞（児童部門）を受賞した「ジュガシユガリン」など多数の作品を発表。叔父は黄桜のカップルの絵などで知られる漫画家の小島巧さん。夫はアニメ「新世紀エヴァンゲリオン」(文化庁メディア芸術祭「日本のメディア芸術100選」アニメーション部門第一位)の監督としても知られる庵野秀明さん。



文部科学省  
生涯学習政策局長  
加茂川 幸夫

頑張りすぎないことの大切さ、「支える」仕事の喜びの話から、人に対する優しい眼差しや思いやりを感じました。それが作品の底流にあって、多くの支持を得られているに違いありません。「働きマン」のストーリーと同じく、自分に向った仕事を見つけ、それに打ち込んでいくことの素晴らしさを安野さんご自身から実感できたインタビューでした。

インタビューを終えて

# 総合型地域スポーツクラブを核とした 地域コミュニティの再生

インタビュー特別総集編

—「私の生涯学習」を振り返る—

第80号

2008年2月1日印刷

2008年2月1日発行

著作権所有 文部科学省©

発行所 株式会社 ぎょうせい

本社

〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部

〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

TEL 03-5349-6666 (営業部)

URL <http://www.gyosei.co.jp>

印刷所 ぎょうせいデジタル株式会社

定価600円 本体571円 76円

年間購読料7,200円 (税・送料込み)

- ・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
- ・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

●本紙掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。

●本誌へのご意見、ご感想、情報などは、メール ([chiiki@mext.go.jp](mailto:chiiki@mext.go.jp)) 又は添え付けのハガキで是非お寄せください。

広告の問い合わせ・申し込み先

(株)ぎょうせい営業部広告課

電話 03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)

Printed in Japan 2008 ISSN 1346-6593

●この刊行物は再生紙を使用しています。

## 編集後記 笑 罰 愕 酬

### 学校支援のススメ

地域の教育力を高めるにはどうすればよいか。悩ましい課題ですが、そもそも「教育力」は、その対象である子どもと接することなしに高まることはありません。よって、地域の教育力を高めるには、地域住民が子どもと接する機会を増やしていくことが不可欠です。では、どこで子どもと接して頂くか。子どもが集う場所と言えば、まず学校であり、しかも学校は組織的な教育の場。ですから、地域住民に学校にお越し頂き、各自の特技や経験、学習成果を活かして子どもの教育にご協力頂く。これこそが地域の教育力を高めるために最も効率的、効果的な方法といえるのではないのでしょうか。

そして、このような地域住民のご支援により、教員にとっては負担が軽減され、子どもと向き合う時間が増えますし、子どもにとっても教員以外の多様な大人から学ぶ機会が増え、学校の教育力も高まります。更に、地域住民にとっても、自らの学習成果を次代を担う子ども相手に活かすことができ、生涯学習の振興や文化の伝承・普及も図られ、ひいては地域全体が活性化していくでしょう。

このように様々なメリットがある、地域住民による学校支援を推進しようと、「学校支援地域本部」を全市町村に立ち上げて頂くための予算が来年度予算案に盛り込まれました。文部科学省では、学校教育・社会教育担当部局の連携の下、準備室を設置したところ。各地域におかれましても、このような学校支援地域本部の趣旨をご理解の上、その設置・運営に向けた準備を進めて頂きますよう、お願いいたします。

(生涯学習政策局学校支援地域本部事業準備室長 御厩祐司)